

【事業所名】 養護老人ホーム 大森老人ホーム

I 事業の年間報告

事業の概要	自己評価	年間の取組と評価	取り組むべき課題
1 利用者への取組			
(1)人権尊重の徹底	B	① 入所者の人格を尊重した事業運営 ア. 中期計画事項 ・虐待防止委員会 年2回実施 ・虐待の芽チェックリスト 年2回実施 評価: 多くの項目で改善が見られたが、差別や偏見に関する課題を再検討し、是正していく必要がある。全体での評価は、昨年度と同水準であった。 ・虐待防止に関する研修 年2回 ・身体的拘束廃止委員会 年4回 研修2回 イ. 入所者の意思を尊重した支援計画の作成ならび計画に沿った支援を実施 ウ. 適切なアセスメントを行い入所者個々の状態を把握できるよう努めた。	① 差別や先入観の解消に向けた課題 ア. 障害の有無をはじめ、あらゆる理由による差別や先入観に対する理解が十分とはいえず、引き続き周知や研修の充実が求められる。 イ. 個性の尊重や多様性の受容について、施設全体としての意識のさらなる向上が必要である。 ウ. 相互理解と尊重に基づく関係性の構築に向けて、支援会議等の活用及び支援計画への適切な反映が十分に行われていない場合がある。 エ. 施設内外の研修について、継続的に実施するとともに、学びを共有し今後の改善につなげていく。
2) 苦情解決・相談体制の整備	A	① 利用者の立場や特性に配慮・推進のため、第三者委員会を開催した。(1回) ② 相手の心情を理解し、迅速に行動することにより、二次クレームに繋げないよう対応。また、第三者委員へ報告を必要とする苦情はなかった。	①～② 苦情や意見・相談は、適切に対応し、社会性や客観性に基づき公正、円満に解決ができる体制を維持・継続する。
3)事故防止対策	A	① ヒヤリハット・軽微事故は朝の申し送りでも共有し、原因分析と再発防止を実施。無線LANを整備し各種ICT導入により安全確保と業務効率化を図った。	① ファイルメーカーを活用し、ヒヤリハットおよび事故情報の一元化を推進することで、サービスの質の向上を図る。
(4)サービスの質の確保	A	① 第三者評価を7月から12月に受審。(評価結果は別紙) ② 常にサービスの質の評価を行い良質なケアを実践する。 ア. チェックリストによる日々の自己点検や職員間ミーティングを通じて、ケア内容の振り返りを実施した。 イ. 利用者へのアンケートや面談を定期的実施し、満足度や要望を把握した。 ウ. カンファレンスや研修等を活用し改善を図るとともに、効果確認を行い継続的な評価・改善(PDCA)を行った。	①～② 施設サービスの充実 ※左記ア～ウについては2026年度の継続事項とする。 また、法人理念を具体的な行動に移せるよう検討する。
2 職員への取組			
(1)人材の確保・育成・定着	C	① 確保: 採用手法を尽くしたものの、充足には至らず継続課題となった。 ② 育成: 個別フォローを行い、一人ひとりの状況や課題に寄り添いながら、バックアップをした。 ③ 定着: 面談では、個を尊重する姿勢を大切にし、相手の話に丁寧に耳を傾けることで安心感を高めた。	① 人員確保に向けた取り組みを進めてきたが、必要数の確保には至っておらず、採用力そのものの底上げが求められている。 ② 支援体制は整備しているものの、個々の成長スピードにばらつきがあり、より効果的な育成アプローチの確立が必要である。 ③ 対話の機会は設けているが、働きやすさの実感や組織への定着につながる取り組みとしては十分とは言えず、さらなる工夫が求められる。
(2)人材の活用	B	① 活用方法: 職員一人ひとりが自分の責任や目標を把握しやすくなるよう、利用者ごとの担当職員を配置し、役割の明確化を進めた。	① 個々のスキルや特性の把握は進んでいるが、それを踏まえた適切な配置(利用者担当など)については、なお改善の余地がある。

(3)職場環境づくり	B	① 対話の活性化：定期的な個別面談の実施や朝礼・申し送りでの情報共有、意見交換の機会を設けることで、風通しの良い組織づくりを推進した。 ② 安全性の向上：相談窓口を周知し、ハラスメント防止と職場環境の健全化を図った。	① 心理面・文化面を重視した職場づくり 物理的側面だけでなく、心のケアや組織風土まで踏まえた環境改善を推進する。 ② ハラスメント対策の体制強化 研修による意識向上、対応マニュアルの整備、匿名アンケートによる実態把握を徹底する。
3 地域社会への取組			
(1)地域貢献	A	① 食事サービス【ホームDEランチ】毎週金曜日・参加者延743人(大幅増+218) ② 利用者とともに近隣の小・中校生の登校見守りボランティアや公園のクリーンアップ活動。(開校期間 延603人参加) ③ 子ども映画会の開催(年3回 延110人参加)、地域の各種教室などへの施設開放の実施。(月3～4回程度) ④ 保育園や幼稚園、小学校などとの相互交流行事。(年間を通して実施)	①～④を引き続き実施。地域ニーズを発掘し、更なる拡大を目指す。
(2)災害対応	A	① 災害対策と事業継続 ア. 事業継続計画の訓練実施による実践力向上、総合防災訓練への参加による連携強化、並びに非常食(1週間分)や資機材の整備を行った。	① 備蓄と備えの強化と必要物品の購入は後回しにせず、被害を最小限に抑えるための取り組みの実践を継続すること。
4 経営基盤強化への取組			
(1)収入増への取組	B	① 各月平均128名、達成率は98%であり、目標である100%には到達せず。	① 入所直前の辞退や補充不足、依頼件数の少なさが課題であり、行政への働きかけを強化し、利用者数の増加を図る必要がある。
(2)コスト削減への取組	B	① ワークフローを見直し、業務コストの削減に努めた。具体的には、業務プロセスを可視化したうえで、重複作業や非効率な手順を整理し、作業手順の標準化を行った。	① 現行のワークフローには非効率な部分が多く、業務コストが増大していることが課題である。このため、ITツールの導入により無駄な手順や重複作業を削減し、業務効率化を図る必要がある。
(4)施設設備等物的基盤整備	B	① 老朽化に伴い設備面の劣化・突発的な修繕費の負担が予算を圧迫している。	① 整備箇所が多岐にわたるため、優先順位を設定して対応する。また、予算確保に向けて都と協議を進める必要がある。
(5)組織・システム	A	① 業務の効率化や一貫性を確保するために、業務プロセスや情報管理を標準化・自動化し、ツールや技術を導入することの準備を進めた。	① ファイルメーカーを使用し、業務手順やルールを統一・明文化し、定型業務をAIによるシステムで自動化、更なる時間とコストを削減の実施
(6)感染症対応	A	① 毎月の感染症対策委員会において、安全確保と感染拡大防止を最優先に、衛生管理・環境整備・体調管理・啓発活動を実施した。 ※年間感染症数 【新型コロナウイルス】利用者9名 職員0名 【インフルエンザ】利用者2名 職員2名	① 引き続き、感染症対策委員会で、入所者・職員の体調変化や近隣地域の状況の確認、予防に努め、感染症発生時は随時開催していく。
(7)危機管理	B	① 利用者や職員の安全と健康を守るための事故防止マニュアルの随時更新。	① 自然災害、感染症、事故、虐待、それぞれのマニュアルの整備ならびに更新の継続。
(8)情報セキュリティの強化	A	① データを正しく管理し、漏洩や紛失を起こさないようにするため担当者を置き、セキュリティの強化の向上を図った。	① 今後、さらなるICT化に伴い管理体制を強化し、マルウェア感染や情報漏洩などのセキュリティ事故を未然に防止していく。
5 持続可能な社会の実現に向けての取組			
(1)SDGsの取組	B	① 目標3：サービスの質の向上と利用者満足度の向上を図り、健康と福祉の充実に取り組んだ。 ② 目標8：職員とともに安全・公平・成長できる場をつくること目指した。 ③ 目標12：職員に対しSDGsを自分ごととして捉える意識をもたせた。	① 目標3：取組は一定程度進んでいるが、より効果的な提供体制の充実が課題である。 ② 目標8：一定の成果は見られるが、働きがいの向上に向けた取組のさらなる推進が課題である。 ③ 目標12：一部取組は進んでいるが、廃棄物削減に向けた具体的対策の強化が課題である。